

DI 調査結果（令和6年4月-6月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は海外経済減速等の影響により停滞が続いている。

来期については改善が期待されるものの懸念材料が多く厳しい見通しとなっている』

【調査概要】

1. 今期(令和6年4月-6月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など4項目がプラス、「売上高」など8項目がマイナスとなり、8項目が少しながら改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲26.4(前回▲27.5)とほぼ横ばい状態だが少し改善した。また高騰が続いている「原材料価格」が▲57.6(前回▲40.6)と更に上昇している。「収益状況」は▲24.6(前回▲28.5)と少し改善しているものの、停滞感が続き厳しい状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲9.0(前回▲8.6)と引き続きマイナスとなり、下振れ傾向が続いている。「受注残」8.4(前回3.9)と上昇したが、「生産設備」0.0(前回2.6)と、減少している。
3. 来期については、「来期受注」▲7.5(前回▲17.0)、「来期採算」▲12.8(前回▲16.0)、「来期資金繰」▲8.3(前回▲14.3)と、改善が期待されるものの、依然としてマイナスでの推移であり、先行きについては厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」が39.8(前回35.6)と引き続きトップになり、受注の不安感が増してきている。「人材不足」は26.5(前回32.4)と減少しているものの、依然として高く、自動化や省人化の取組みが急がれる。
5. 景況感は海外経済減速等の影響により停滞が続いている。また、依然として原材料、エネルギー関連価格の高騰が続いており、さらには人件費のコスト高など懸念材料が多い状態にある。来期については、若干改善が期待されるものの、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向が不透明なことから、先行きが厳しい見通しとなっている。

